

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は1月30日-1日31日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を5.25-5.50%に据え置くことを4会合連続で決定しました。

会合後に公表された声明文では、経済活動について「堅調なペースで拡大している」と上方修正し、物価に関しては「雇用とインフレの目標達成を巡るリスクは、より良いバランスへと移行しつつある」とインフレ率が高止まりしているとの認識をやや弱めました。また、政策決定に関しては「委員会は物価上昇率が持続的に2%に向かっているとの確信を深めるまで、誘導目標レンジの引き下げが適切になるとは想定していない」との文言を追加し、早期利下げに対して慎重な姿勢を示しました。

パウエル議長はFOMC後の記者会見で、「政策金利はピークを打った可能性が高い」、「年内に利下げを開始する可能性が高い」、「ほぼ全ての参加者が次の政策として利下げが適切であると考えている」としながらも「利下げを行うために十分な確信を3月会合までに得られる可能性が高いとは思わない」と述べ、次回FOMCでの利下げ開始に否定的な見解を示しました。

市場の反応

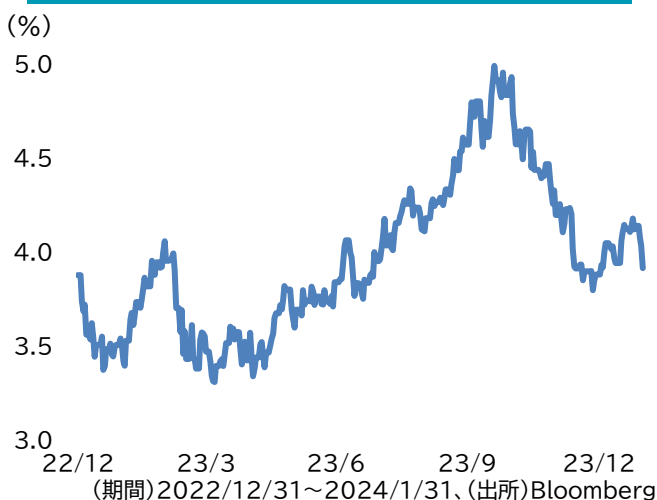
今回のFOMCでは、インフレ率が2%に向かうとの確信を強めるまでは利下げを急がないことが示唆され高金利環境の長期化への警戒感が強まったことから、NYダウは前日比317.01ドル安の38,150.30ドルに下落しました。

債券市場では、米国地銀の決算が予想外の赤字となったことや、同日に発表された米雇用関連指標の伸びが鈍化したことを受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり、米国10年債利回りは3.91%まで低下して終わりました。為替市場では、FOMC声明文が公表される前に発表された米雇用関連指標の伸びが鈍化したことを受けて内外金利差の縮小観測が高まったことから円高・米ドル安が進み、一時は1ドル=146円前半まで円高・米ドル安が進行しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。

評価及び今後の見通し

今回、パウエル議長が早期利下げに対して慎重な姿勢を改めて示したことを受けて、FF金利先物市場において3月の利下げ織り込みが低下したことを踏まえると、内容は幾分タカ派だったと考えます。一方、声明文では経済活動は拡大しておりインフレ率は高止まりしているとの見方を弱めたことからすると、今後の利下げ開始やそのペースに関するFRBの自由度は高まったと考えられ、利下げに向けた地均しが進められたと評価しています。

今後の政策決定は経済指標次第との様相が強まっており、インフレ指標の鈍化等を材料に高まった市場の利下げ期待をFRBが牽制する展開が暫く続くと予想しています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
3/7	ECB理事会
3/18-19	日銀金融政策決定会合
3/19-20	FOMC

出所:Bloomberg